

須賀川市立第二小学校だより

すこやか北星



須賀川市立第二小学校

平成30年度 NO.17

平成31年3月14日(木)

電話 75-3356

FAX 73-2581

「とっても楽しく、ちょっぴり寂しく、 そして、心温まる児童謝恩会」 ～ありがとう6年生～

2月28日(木)に、児童謝恩会が行われました。6年生が感謝の思いを持ち、二小での思い出を大切にしてくれていることがわかる、心が温まるすてきな会でした。

今年の6年生は、みんな仲良く、素直で、個性豊かで、気配りのできる子どもたちです。そのよさが全て表れた謝恩会であり、とっても楽しいひと時を過ごすことができました。会の中で、今年度末で退職



する宗形誠教頭へのサプライズがあり、大粒の涙を流されている宗形教頭の姿に職員も感動し、涙を止めることができませんでした。思い返せば、各種大会やコンクールの時、学校へ戻ってくる仲間のために、教室の黒板にたくさんのメッセージを書き残していた6年生の姿がありました。「すてきな気遣い」ができる6年生だったことを、改めて思い出されました。

この謝恩会では、6年生の新たな一面も見つけました。それは、「心の純真さ」です。嬉しいときは「嬉しい」と、悲しいときは「悲しい」と、そして寂しいときは「寂しい」と、素直に表せる6年生の姿を目にしたとき、とってもすてきな心を持つ人に成長したなど嬉しくなりました。

6年生から教職員全員に、心のこもったプレゼントをいただいた上に、グループでの楽しい発表や感謝の思いを込めた呼びかけ、さらに全員合唱と、本当にたくさんの思い出と感動をいただきました。会を終えて校長室に戻った時、「卒業式を、心温まる感動的な式にしたい。」と、強く心に思った会でした。

「6年生、すてきな謝恩会をありがとう！」



東日本大震災で犠牲になられた方々を追悼

地震が発生した2時46分、犠牲になられた方々への哀悼の意を込めて、全校生で黙とうを捧げました。

3月11日は、私たち大人にとっては、忘れられない日ですが、「東日本大震災」が発生したとき、6年生でさえ4歳です。6年生の何人かに尋ねてみましたが、地震の記憶は定かでないようでした。私たち大人は、「3月11日」をどう子どもたちに語り継いでいけばよいのかを考え、黙とうの前に校内放送を使って、次のことを子どもたちに話しました。

「今日、3月11日、多くの人々が悲しみを新たにしています。8年前の今日、午後2時46分、これまでに経験したことがない大きな地震が発生しました。『東日本大震災』です。この地震により、福島県など東北地方に大津波が発生しました。これまでに約16,000人の尊い命が失われ、未だに2,500人以上の人々が行方不明になっています。…中略…

あの日から8年が経ちましたが、家族や親戚を失い、未だに大きな悲しみを抱えている人々がたくさんいますし、福島県は、地震や津波の被害に加えて、『原子力発電所』の事故により、大きな影響を受け、今も故郷に帰れず、不自由な生活をしている人々がたくさんいます。

『東日本大震災』は、とてもつらく、悲しい経験でしたが、私たちを心配し支援してくれる人々が、世界中にたくさんいることを知る機会にもなりました。『絆』という言葉が、あの時ほど強く感じられたことはありません。…中略…ここ数年、熊本地震や北海道地震、西日本豪雨など、日本では多くの自然災害が起り、たくさんの人々が、私たちと同じように、つらく、悲しい思いをしてくれています。世界中の人々に助けられ・支えられた私たちだからこそ、被害に遭われた人々の気持ちに寄り添い行動することができると思います。

…中略…今日は、テレビで『東日本大震災』のニュースがたくさん放送されると思います。お家の人から当時の様子を聞くなどして『東日本大震災』のことを理解し、被害に遭われた人々の心に寄り添う一日にしてください。」



「卒業式」まで、1週間です。

～6年生に、感動の卒業式を！～



いよいよ22日の「卒業式」が迫ってきました。3月に入り、卒業式に参加する4年生から6年生による全体練習が始まりました。「卒業式」は、6年間の小学校生活の集大成の式であり、厳粛な中でも6年生の成長を実感できる式です。参加する全ての子どもたちの姿や行動が「厳粛さ」を醸し出しますので、練習には「ピン」と張り詰めた空気が感じられます。そんな中で子どもたちは、一人ひとりに与えられた役割をしっかりと行おうと、真剣に練習に取り組んでいます。そんな子どもたちの姿に頼もしさを感じています。在校生には「6年生の卒業を心からお祝いする気持ちと6年生への感謝の気持ち」を、6年生には「卒業する喜びと、6年間支え合った仲間とたくさんの方々への感謝の気持ち」を大切に式を創り上げて行ってほしいと思っています。